

山口県生協連 ニュース vol.224

発行：山口県生活協同組合連合会
〒753-0083 山口市中後河原 210
TEL: 083-923-5614 FAX: 083-928-5416
E-mail: yken.ccu@smile.ocn.ne.jp
<http://yamaguchi-kenren-coop.jp/>

2017年7月31日発行



第68回通常総会を開催しました。

2017年6月20日(火) 14:00~15:30 山口県労福協会館にて、山口県生活協同組合連合会第68回通常総会を開催しました。出席はご来賓4名(山口県環境生活部 佐伯彰二部長、山口県労働者福祉協議会会長 中繁尊範様、日本生協連中四国地連事務局 黒木勉様、山口県原爆被爆者支援センターゆだ苑事務局長 坂本由香里様)、県連理事・監事12名、代議員45名(実出席27名、委任状出席18名)でした。

主催者を代表して、当連合会の有吉会長があいさつをおこない、続いてご来賓を代表して佐伯部長と中繁会長よりご祝辞をいただきました。

有吉会長理事のあいさつ

1948年に消費生活協同組合法が制定され、翌1949年に山口県生協連は全国で3番目に設立されました。時代変化の中で消費者・組合員の暮らしやニーズは変化してきています。各生協はそれに応えた事業や運動の組み立てが必要とされ、行動できる消費者運動が求められています。県生協連では昨年、ピースフォーラム、山口県版平和首長会議を開催し、医療生協健文会の活動「健康チャレンジ」に取り組みました。また、山口県ユニセフ協会の設立に向けた活動も行ってきました。生協連は各生協の経験や優れた活動や取り組みをまとめ、様々な分野で運動を拡げ、山口県内の生協運動の発展に努めていきたいと思っております。



有吉会長理事

県環境生活部 佐伯部長のご祝辞

生協連は時代の要請に応えた積極的な活動の展開によって県民生活の向上に貢献してこられました。会員の熱意と尽力に深く敬意と謝意を表します。県では人口減少・少子高齢化をくい止める政策や住みよい地域社会を実現するための社会の在り方の変革に取り組んでいます。食や消費生活の安心安全確保のためには、行政だけではなく、県民一人ひとりが課題を共有し解決に向けて支え合って取り組むことが大切です。生協活動は消費者の自立性・主体性を尊重し、相互扶助の精神をもって心豊かな生活を築いていく活動です。生協連は連携組織の中核であり、活動にこれからも大きな期待を寄せています。県と生協連の皆様との連携を密にして消費者の視線に立った行政を進めていきたいので引き続きご協力をお願い致します。



佐伯部長

議長、書記の任命後、資格審査をおこない、代議員定数 45 名、本人出席 27 名、委任状出席 18 名の全員出席で総会が成立していることが報告されました。議事に入り、高木専務理事が第 1 号議案の 1「2016 年度活動報告・決算報告および剰余金処分案承認の件」、福田監事が第 1 号議案の 2「監査報告」を提案し、引き続き高木専務理事が第 2 号議案「2017 年度活動計画案および収支予算案承認の件」、第 3 号議案「定款の一部変更の件」、第 4 号議案「役員報酬限度額承認の件」、第 5 号議案「議案決議効力発生の件」について提案しました。

続いて議案の審議・採決をおこないました。第 1 号議案に対して 3 人の代議員から発言がありました。東ソー生協の魚谷代議員より障がい者就労支援事業所「東ソーコープ陽だまりワークス」についての報告、コープやまぐちの山岡代議員からは山口県ユニセフ協会設立に向けて準備委員会の活動報告、医療生協健文会の三藤代議員からは健康チャレンジについて発言がありました。第 1 号議案から第 5 号議案まで、すべて賛成多数で承認され、議長解任のあいさつをもって総会は終了しました。



中繁 芳福 協会長



三浦 議長

障がい者福祉サービス 就労移行支援事業所 東ソーコープ陽だまりワークスの取り組みについて

通常総会で、東ソー生協の魚谷代議員より、障がい者福祉サービス 就労移行支援事業所 東ソーコープ陽だまりワークスの取り組みについて報告紹介がありました。

開設目的は、運営する東ソー生協が地域に貢献できることとして「障がいのある方が社会の中で仕事を持ち地域社会の中で共に暮らしていくことのできる街」の実現に向けたお手伝いです。私たちは就職に向けてチャレンジされる皆さんが、仕事を通じて個性や強みを発揮し、社会で活躍できるよう、全力でサポートします。

事業内容は一般企業に就労する意欲をお持ちの障がいのある方に、必要な知識、能力向上の基礎訓練、実習等の機会を提供する福祉サービスです。4月の開設以来、企業からの就職斡旋依頼や支援学校からの実習生受け入れなど好調なスタートです。

今後は陽だまりワークスを通して障がい者福祉の増進に貢献し、チャレンジと夢を実現できる場所を地域に提供することを考えています。



魚谷 代議員

第 4 回 健文会健康づくり交流会が開催されました

つくろう 誰もが笑顔 あふれるまち ～楽しく予防しよう認知症～

趣旨 : 広く市民に健康寿命延伸の情報を発信する

日時 : 5月14日(日) 10:00~15:00

場所 : 宇部市多世代ふれあいセンター、総合福祉会館(宇部市琴芝町)

主催 : 医療生活協同組合健文会(生協連会員生協)

後援 : 山口県・宇部市・山陽小野田市・山口市・山口県生活協同組合連合会

参加者は医療生協の組合員・職員、一般市民、自治体職員など 180 名でした。

午前の全体会は、全員合唱（♪ふるさとは今もかわらず♪）のオープニングで始まり、医療生協健文会の森健弘常務理事の主催者あいさつの後、宇部市健康福祉部の中野加代子部長、山口県生協連の高木直哉専務理事の来賓あいさつ。

続いて、心理学者に聞く「みんなが笑顔になる認知症の話」～正しい知識から予防・対応まで～と題して、鳥取大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻講師 竹田伸也先生が記念講演をされました。講演では、老いによってもたらされる豊かさについて、認知症の始まりや症状について、認知症になってもその人の持っている持ち味（力や強さ）を見つけ出してあげることの大切さについて、認知症の予防に向けた習慣について、認知症になっても住みよい社会を目指すことについて話していただきました。とても軽快で楽しくわかりやすい内容で会場からは度々笑い声があがっていました。



竹田伸也先生

午後からは 6 つの分科会（・すこしおで減塩 ・心も身体もうきうきころぼん体操・足腰が丈夫になるセーフティウォーキング・認知症予防 脳いきいき 愉しく体験・認知症の人を支える）があり、それぞれのテーマに沿った講座や活動で健康づくりに取り組みました。



高木専務理事



ころぼん体操



塩分濃度の違う味噌汁を飲み比べ

山口県生協連 役職員研修会 「ヒバクシャ国際署名キックオフ学習会」を開催



2017年6月22日、山口県労福協会館で、山口県生協連主催 役職員研修会を開催しました。今回の学習会は、核兵器禁止条約の実現を目指す被爆者の呼びかけによる初めての署名活動「ヒバクシャ国際署名」のキックオフ学習会としました。参加者約 70 名。

山口県生協連はコープやまぐちとピースアクション実行委員会を構成し、協力団体である、山口県原爆被害者団体協議会、山口県原爆被爆者支援センター「ゆだ苑」とともに平和活動に取り組んでいます。

主催者を代表して、県生協連の有吉会長は、生協は平和活動を長く積み重ね、理解者を助け、世論に訴えて、多くの人々に参加してもらってきました。核兵器のない社会を目指して、世論を高める一翼になればとの思いから、この夏の平和活動も頑張っていきたい。全国の生協でも取り組んでいる署名の趣旨を理解し、成功させたい、とあいさつをしました。

研修会の講師として、「ヒバクシャ国際署名」のキャンペーンリーダーである林田光弘氏にご講演いただきました。林田氏は長崎出身の被爆 3 世で現在は大学院生です。高校生の時には平和大使を努められ、国連で開催



林田光弘氏

された核兵器禁止条約の交渉会議の場に被爆者の方を送り出せるように、クラウドファンディングで渡航費用を集める活動などをされ、マスコミなどでも多く紹介されています。

講演では、核兵器廃絶と核兵器禁止条約をすべての国に求める「ヒバクシャ国際署名」は被爆者が作った文書である事や今までの核兵器禁止条約の流れを説明され、私達に出来る事として、この署名用紙と署名活動によって、被爆者のもう二度とあのような思いをさせたくないという被爆体験や声、世界の核の現状を伝えて欲しい事、それがキャンペーンの一番の意義であり、被爆者の思いや覚悟を受け止め、被爆者の方々が生きているうちに核兵器廃絶に向けた道筋をつけたいと話されました。

次に、山口県原爆被害者団体協議会会長森田雅史氏に、県内被爆者からの署名活動の思いとご自身の被爆体験の話をしていただき、最後にピースアクション実行委員会としての署名の取り組みについて、コープやまぐちの倉益理事が説明をされました。



森田雅史氏



核兵器廃絶国際署名山口県推進連絡会キックオフ集会を開催しました。

核兵器廃絶を訴える「ヒバクシャ国際署名」を呼びかける連絡会は7月23日山口県労福協会館にてキックオフ集会を開催し、県生協連も構成団体として参加しました。連絡会の構成団体は原爆被爆者支援センターゆだ苑、県生協連など8団体。

連絡会の会長でゆだ苑の岩本理事長のあいさつ後、長崎で被爆された、日本被団協代表委員の田中熙巳さんが、「被爆者が訴える核兵器廃絶 国際署名について」と題して講演をされました。生協連からは、先日開催した「ヒバクシャ国際署名キックオフ学習会」について報告をおこないました。2020年9月までに県内で100万筆の署名を目標に掲げています。



山口県知事への平和要請を行いました。

7月25日山口県ピースアクション実行委員会は核兵器の廃絶と平和な世界を願って、山口県庁にて、県知事へ平和要請を行いました。最初にピースアクション実行委員会の有吉会長よりあいさつをおこない、コープやまぐちの組合員が親子で平和要請文を読みました。県環境生活部部次長より県を代表してごあいさつをいただきました。平和要請後、山口市中心商店街で「ヒバクシャ国際署名」の署名活動を行いました。

*ピースアクション実行委員会構成団体(山口県生活協同組合連合会、生活協同組合コープやまぐち)

*協力団体(山口県原爆被害者団体協議会、山口県原爆被爆者支援センターゆだ苑)

